

世界初 小児がん患児専用治療支援VRソフト 「はたらく細胞VR」完成



©清水茜 / 講談社・アニプレックス・davidproduction

おなじみキャラと力を合わせ がん細胞と闘う 子どもたちの頑張る力引き出す



「はたらく細胞VR」をプレイする
ヘッドセットなどシステム一式

声優さんたちから
子どもたちに送られたサイン色紙を持つ佐伯医師

世界初の小児がん患児専用治療支援VRソフト「はたらく細胞VR」完成

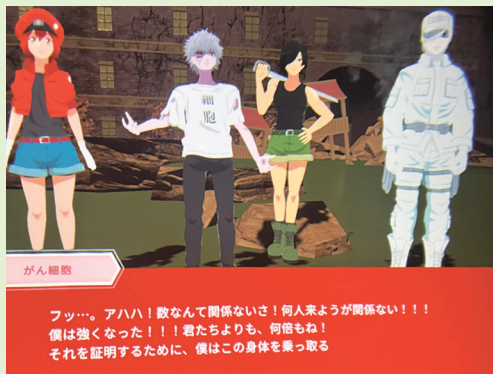
おなじみキャラと力をあわせ、がん細胞と闘う 子どもたちの頑張る力引き出す

○ 3年がかりで開発 全国の小児がん治療病院に配布へ

広島大学病院が3年以上かけて開発を進めてきた、入院中の小児がん患者の治療への意欲を高め、頑張る力を引き出す世界初の治療支援VR(仮想現実)ソフト「はたらく細胞VR」がついに完成しました。

漫画やアニメでおなじみの「はたらく細胞」のキャラクターと一緒に体の中でがん細胞と闘い、治療への理解を深めるソフト。医療・教育・エンターテインメントを融合させた革新的な試みです。制作費はご理解いただいた市民の皆さんや企業からの寄付がもとになっています。ソフトは日本全国の小児がん治療病院で利用できるようになる予定です。

小児がんは毎年2000人以上が発症し、厳しく辛い治療を受けています。がん細胞を完全に死滅させなければならぬため、非常に激しい治療に耐えることとなります。子どもたちはなぜ治療が必要なのか十分に分からないまま、長期の入院生活を余儀なくされるケースもあり、メンタルケアの重要性が指摘されています。



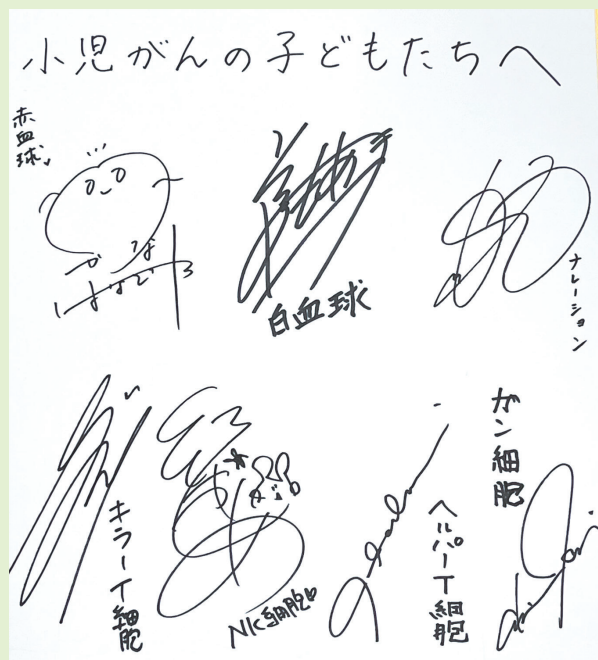
○ 子どもたちが体に入り込み 白血球とともに闘う

「はたらく細胞」は、白血球、赤血球、血小板、マクロファージなど体内の細胞を擬人化し、免疫反応や病原体との闘いなど、それぞれの働きをドラマチックに描いています。ソフト「はたらく細胞VR」では、プレイする子どもたちが自分の身体の中に入り込み、身体の仕組みを学びながら白血球とともに細菌やがん細胞と戦うなど、物語の主人公となって疑似体験します。あまりに強いがん細胞に苦戦する中、抗がん剤の助けを借り、ついに強敵を打ち倒す。そんな体験ができるソフトになっています。



○ 声優さんたちの熱演で臨場感 「ひとりじゃない」

VRで周囲360度を囲まれる没入感に加え、アニメにも出演している声優さんたちの熱演で、臨場感あふれる仕上がりになっています。子どもたちが、自分の身体の中で目には見えない「味方=細胞たち」が必死に頑張っていることを感じ、治療への前向きな気持ちや身体への理解、「ひとりじゃない」という安心感を育めるよう期待しています。



アニメ「はたらく細胞」に出演する声優さん7名の直筆サイン色紙。

- ・赤血球 / 花澤香菜さん
- ・白血球 / 前野智昭さん
- ・ナレーション / 能登麻美子さん
- ・キラーT細胞 / 小野大輔さん
- ・NK細胞 / 行成とあさん
- ・ヘルパーT細胞 / 櫻井孝宏さん
- ・がん細胞 / 石田 彰さん

○ 1,510万9,000円の寄付金 ありがとうございます

講談社(東京)の協力を得て、公募で選んだVR制作会社ビーライズ(広島市)が手掛けました。寄付金は132件総額1,510万9,000円をお寄せいただき、別途助成金等を合わせて開発を進めてきました。

広島大学病院は中四国唯一の小児がん拠点病院です。がん治療にVRソフトを導入するのは世界初の取り組みで、ソフトのシナリオを作るなど監修した小児外科の佐伯勇医師は「小児がんの子ども達専用のVRソフトをはたらく細胞のキャラクターで作りたい!という、夢物語のようなプロジェクトに多くの方に賛同、理解、ご協力をいただき、3年以上かけてやっと形にすることができました。本当に多くの方々を支えていただき、大変感謝しております。でもこれからが本番です。実際の小児がんの子ども達にプレイしてもらい、効果を検討していきたいと思っています」と話しています。

広島大学病院平和といのちの架け橋基金ご寄付のお願い



広島大学病院は広島県内唯一の特定機能病院として、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、てんかん支援拠点病院など数多くの指定を受けております。さらに、2025年5月には国内16番目となる臨床研究中核病院として厚生労働大臣に承認を受けました。患者さん一人ひとりに寄り添い、地域の医療機関と連携しながら、安全・安心な先進医療の提供を努めております。

このたび、「広島大学病院に何か恩返しをしたい」という患者さんからの声を契機として、2026年4月1日、「広島大学病院平和といのちの架け橋基金」を創設しました。本基金の名称には、広島大学の平和を希求する精神のもと、ご寄付くださる皆様のお気持ちを、現在治療に向き合っておられる患者さんへつなぐ「架け橋」となることへの願いを込めております。

患者さん一人ひとりがその人らしく生きることを支え、いのちを紡いでいかれることを願い、本基金にお寄せいただいたご寄付は、大学病院における高度治療の提供、診断体制の充実、医師の技術向上と研鑽、医療機器の整備、さらには患者さんが安心して療養できる環境の充実など、広く医療の向上に活用させていただきます。

本基金の趣旨にご賛同いただき、何卒ご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

安達伸生病院長ごあいさつ

皆様からお寄せいただくご寄付は、そのお気持ちとともに大切にお預かりし、基金の目的に沿って、平和といのちを支える医療の充実のために活用してまいります。

ご寄付の方法

クレジットカードをはじめ、PayPay、インターネットバンキングに対応しております。振り込み用紙をご希望の方には、専用の振込用紙をご用意しております。広島大学病院平和といのちの架け橋基金のリンクです。



税制上の優遇措置

広島大学病院平和といのちの架け橋基金へのご寄付に対しましては、税制上の優遇措置が得られます。

詳しくは広島大学基金室のホームページ (<https://www.hiroshima-u.ac.jp/yakudou/uuguusoti>) をご覧ください



看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[認定看護師]
皮膚・排泄ケア看護
宇野 美穂

01 : どんな仕事? 皮膚のトラブルや床ずれなど傷の発生を予防できるように皮膚の健康を保つケア、手術による創(きず)や、外傷、床ずれなどを治し、生活の環境を整えるケア、人工肛門や人工膀胱、便や尿失禁などの排泄に関わるケアを専門としています。皮膚や排泄に関するトラブルは患者さんの生活の質に大きく影響します。患者さんがより快適に日常生活が送れるよう、スキンケアや排泄を行うための支援をしています。また、多職種とも協力しながら活動しています。



02 : きっかけは? 手術による創や人工肛門のケアに携わる機会が多かったためです。また、口腔領域のがん患者さんが、がんによる創をもったまま自宅で過ごしたい、創のある口から食事をしたいという願いを叶えるためにケア方法を思い悩みながら介入させていただいた機会が複数あり、専門的でより快適なケアを提供できる知識や技術を身につけたいと思いました。

03 : 将来へ向けて 病院だけでなく、自宅で創や排泄ケアを必要とする患者さんが多くなっています。患者さんが望まれる環境で、その人らしく、安心して快適な日常生活を送れるように知識や技術を提供するとともに、地域とも連携がスムーズに行えるように取り組んでいきたいです。また、活動を継続できるように後輩育成にも努めていきたいと思っています。



[認定看護師]
がん放射線療法看護
野村 恵

01 : どんな仕事? 放射線療法は、外科療法(手術)、化学療法と並ぶがん治療の三本柱の一つです。手術とは違い、患部を切除しないため、残存機能や形態温存に優れ生活の質(QOL)の維持が可能です。身体への負担が少なく、高齢の方や手術・化学療法が困難な方の選択肢となることがあります。放射線療法看護として副作用には早期に介入し、症状の軽減を図ると共に、働きながら治療を受けられる方には、日常生活への影響を含めた指導を行っています。患者さんの思いや生活背景を尊重し、安心して治療に臨めるよう寄り添い、支援しています。



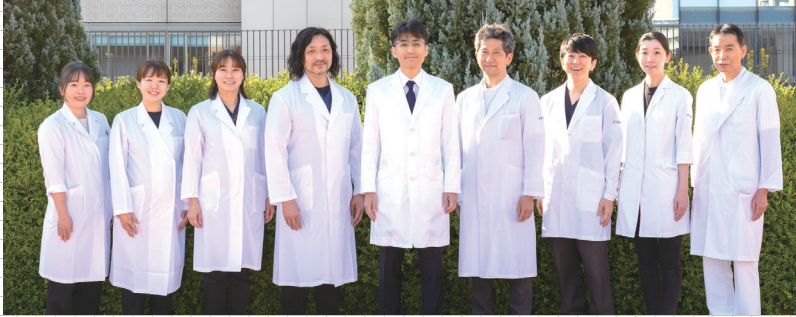
02 : きっかけは? がん患者さんが放射線療法による副作用や不安に苦しみ、自分らしさを見失いそうになる姿を目の当たりにし、看護師として専門的ケアの必要性を実感しました。看護の質が向上すると副作用の辛さにいち早く気づき必要な支援ができます。患者さんの生活の質を守り、治療継続を支える力になりたいと考え、資格を取得しました。

03 : 将来へ向けて 放射線療法は治療機器と技術の進歩により高精度化が進んでいます。治療の高精度化と患者ニーズの多様化に対応するため、放射線療法看護も進化し続けることが必要です。新たに特定行為研修で培った知識と臨床判断力を放射線療法のチーム医療に活かし、患者さんの治療継続を支えるとともに、院内全体の看護師教育にも貢献していきます。

診療科最前線

「歯科麻酔科」

(診療科長:花本 博 教授)



科麻酔科医の高度な専門領域です。

また、知的能力障害をお持ちの患者さんの管理も重要な役割です。個々の特性に配慮し、安全性のバランスを考慮した「適切な適応判断」が欠かせません。私たちは全身状態を厳密にモニタリングし、安全を守るために日々診療に当たっています。

▶ 診療科の特徴

歯科麻酔科では、手術室での全身麻酔に加え、外来での「鎮静管理(静脈内鎮静法)」に重点を置いています。歯科治療は短時間で繰り返しの処置が多いのが特徴ですが、器具がお口に入るだけで強い吐き気を催す「異常絞扼(こうやく)反射」や、強い不安を持つ「歯科治療恐怖症」の患者さんは意外に多く、当科への相談件数は年々増加しています。私たちは、こうした困難を抱える患者さんがリラックスして治療を終えられる環境を整えています。

▶ 得意分野

歯科治療の大きな特徴は、治療部位と空気の通り道(気道)が同じ「お口の中」である点です。鎮静薬を使用すると喉の筋肉が緩むため、舌の落ち込みや治療中の水によって気道が塞がるリスクが常に伴います。口腔内で大量の注水を行いながら呼吸を確実に守ることは、歯

▶ 地域とのつながり

地域の歯科医院では対応が困難な、重度の嘔吐反射や障がい、持病を持つ患者さんの「最後の砦」として病診連携を強化しています。地域の先生方と密に情報を共有し、当科で安全に治療を受けられる体制を整えることで、地域全体の歯科医療の安全性を支えています。

▶ 最新のトピックス

当科では、音響センサや新たなセンサを用いて呼吸や嚥下の変化を捉える、モニタリング強化の研究に取り組んでいます。また、近年登場した新薬「レミマゾラム」の歯科鎮静への適応拡大も強く期待されています。薬剤の選択肢が増えることは、より個々の状態に合わせた柔軟な管理に繋がります。こうした新技術や新薬の確立には臨床研究が不可欠であり、患者さんとともに、より安全で快適な「次世代の歯科診療」を作り上げていきたいと考えています。

催しのご案内 (2026年4月~7月)

がん治療を支える患者サロン

4月16日(木) 13:30~14:30
抗がん剤の副作用について
 会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom
 講師: がん化学療法看護認定看護師 清本美由紀

6月18日(木) 13:30~14:30
がん相談支援センターを利用しよう!
 会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom
 講師: がん看護専門看護師 織田 浩子

7月16日(木) 13:30~14:30
頭頸部がんについて
 会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom
 講師: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師

患者おしゃべり会

5月26日(火) 13:30~14:30 7月28日(火) 13:30~14:30
 会場: いずれも診療棟2階 健康情報プラザ
 申し込み・問い合わせ: がん相談支援センター ☎082-257-1525

肝臓病教室

7月29日(水) 14:00~15:00
「ウイルスだけじゃないあなたの周りに潜む肝炎!」(仮)
 講師: 調整中
 会場: 臨床管理棟3階1、2会議室 申し込み: 不要(参加費無料)
 問い合わせ: 肝疾患相談室
 ☎082-257-1541 (10:00~12:00 13:00~16:00)

